注目記事 Close-up

増加する大雨災害と中古車市場における「冠水車」流通の健全化へ

近年の大雨災害は都市部で大きな被害をもたらす

お盆休み中の関東地方を記録的な集中豪雨が襲った。千葉県内を中心に、線状降水帯による集中豪雨が猛威をふるい、千葉市や佐倉市、いすみ市などで計10人の死亡が確認された（8月17日現在）。今回の豪雨では、千葉市で12時間雨量が348ミリメートルに達した。わずか半日の間に、例年8月の1カ月分の雨量の3倍の雨量による記録的大雨だった。千葉県内22市町で「レベル5」の大雨特別警報が発表され、約20万世帯が避難指示を受ける大災害に見舞われた。今回の大災害の中では、特に自動車走行中の冠水被害などが大きくクローズアップされた。都市型災害のリスクとして注目が集まり、冠水による走行不能車が路上に放置された数は、千葉県内で少なくとも2700台規模に上るという。こうした中で、われわれ自動車業界では、災害による「冠水車」（全損扱い）の適正流通の重要性を改めて考えていかなければならない。（室田一茂）

近年急増する大雨被害と線状降水帯の脅威

気象庁の発表資料によると、日本全国の大雨災害発生状況は、確実に増加している。全国アメダスの「1時間降水量50ミリメートル以上」発生回数は、統計期間の最初10年間（1976年～85年）の約226回に比べ、直近10年間（2016年～25年）は約1・5倍の約340回に増加している。統計期間の最後までに10年あたり27・8回も増加しているという計算だ。これよりさらに降水量が多い「1時間降水量80ミリメートル以上」の年間発生件数は、最近10年間（16年～25年）の平均発生回数は、約25回で、最初10年間（76年～85年）の約14回から約1・8倍も増加している。「1時間降水量100ミリメートル以上」の年間発生件数は、最近10年間（16年～25年）は約4・4回で、最初10年間（76年～85年）の約2・2回の約2倍に増加している。こうした指標を見るだけでも大雨災害の発生頻度が増加していることは明らかだが、より強度の強い雨ほど増加率が高くなっているという。

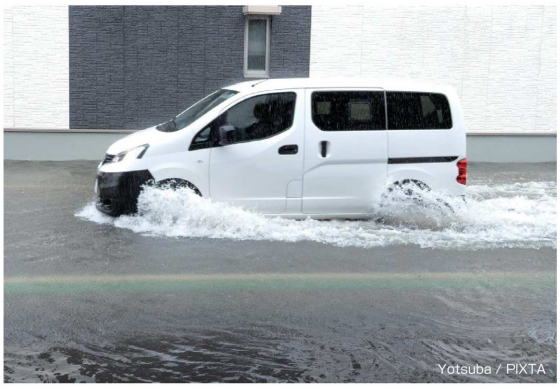
気象庁では「1時間降水量80ミリメートル以上」「3時間降水量150ミリメートル以上」「日降水量300ミリメートル以上」など強度の強い雨は、1985年頃と比較して、概ね2倍程度に頻度が増加しているとし「線状降水帯」のような発達した積乱雲による影響が頻発している状況だ。

冠水車の健全流通のためNAKなどがデータベース構築の協力を呼びかけ

都市部の冠水被害の多くは「内水氾濫」が要因

背景には気温上昇に伴って大気中の水蒸気量が増加、地球温暖化が影響している可能性が指摘されている。単に雨が降る日が増えているのではなく、一度降ると「狭い範囲に、一気に、猛烈な量が降る」という雨の降り方の集中化と激甚化が全国的な課題となっている。こうした中で、被害の傾向も以前のような「川の氾濫」「堤防決壊」などによるものだけでなく「内水氾濫」と呼ばれる大量の雨水が下水道や排水路の処理能力を超え、街中にあふれ出す現象も都市部で発生する大雨被害の大きな要因だ。今回の千葉県での道路冠水の事例も大半がこの「内水氾濫」が原因だったという。

2・3面に関連記事



冠水した道路を走行する車両

自動車流通新聞

2026.8.25

第824号 毎月25日発行

INDEX

JU熊本 22面

組織が一丸となり熊本地震被災者支援活動

【トップ対談連載】⑥ 日整連 島専務理事×PROTO 白木社長 4・5面

【JUテントリ活用店レポート】乙訓ホンダ（京都府向日市） 7面

トヨタユーゼック TAA59周年チャリティ寄付金寄贈 14面

BUDDICA 大阪府に初出店「バディカ大阪堺支店」 22面

発行所：株式会社プロトコーポレーション
発行人：松沢章博　編集人：近藤厚志

東京本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-18-1 新宿セントラルパークタワー23F 電話 03-3343-3033
本社 〒460-0006 愛知県名古屋市中区葵1-23-14 電話 052-934-1900
大阪支社 〒577-0012 大阪府東大阪市長田東2-2-17 電話 06-6743-5400

※本紙掲載のQRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。